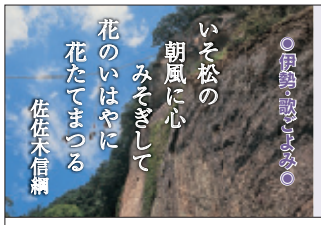
皇學館 学園報 第41号

発行・編集　学校法人皇學館　企画部
TEL0596-22-6496・8600

大学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-0201㈹　FAX0596-27-1704

高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577　TEL0596-22-0205㈹
【中学】〒516-8588　TEL0596-23-1398㈹



●今号の注目記事

1面
雅楽師・東儀秀樹氏が特別招聘教授に就任

2面
本澤教授の通夜祭・葬場祭に約900名が参列
101名が教員に合格
平成24年度 教員採用試験

3面
知的書評合戦
ビブリオバトル全国大会に初出場

4・5面
学園祭フォトギャラリー

6面　高校・中学校
体育大会
修学旅行の感想 ほか

7面
県内企業が約300名にPR
学内企業説明会＆情報交換会を開催

8面
第2回 ケント大学夏季短期留学記

●連載

7面
先輩、お元気ですか
大西由希子氏
（皇學館高校第40期・平成17年卒）

雅楽師

東儀秀樹氏が特別招聘教授に

雅楽師の東儀秀樹氏が七月一日、本学特別招聘教授に就任した。その第一回目となる講義が十一月十八日、記念館において行われ、計三時間の講義を雅楽部をはじめ祭式研究部などの学生およそ五十名が受講した。

「この講義が学生にとって単なる雅楽や音楽の授業としてだけでなく、より広く、大きな意味でのきっかけ作り、触発されるものになれば」と語る東儀氏

奈良時代から千四百年間雅楽を世襲してきた楽家に生まれ、現在、雅楽師として世界を舞台に活躍する東儀秀樹氏。本学の雅楽部とは宇治橋渡始式奉祝行事や今年四月に行われた創立百三十周年・再興五十周年記念事業で共演した縁もあり、この度の就任となった。

講義では雅楽部をはじめ祭式研究部などおよそ五十名の学生を前に雅楽のルーツについて解説。大陸から伝わってきた仏教音楽を日本人が自分たちに合う形に昇華させ今日まで受け継いできた歴史をひもときながら、「日本人は新しいものに敏感で、宗教の違いにこだわらず良いものはすぐに取り入れ〈日本ならでは〉に変えていく。共存の道を選んでいるところに日本人気質が表れている」と日本文化の特性を説明した。また、講義の合間にはクラシックの名曲「Jupiter」などを奏でる場面も。幼少期を海外で過ごしロックやジャズなど多様な音楽に親しんできた東儀氏は「音楽は自由」ときっぱり述べ、「根底に古典雅楽を尊重し正統に表現することに自信があるからこそ新しいチャレンジができる」と自身の音楽観、あり方を熱く語った。

笙の試演に立候補した尾田君に吹き方を指導する東儀氏。即興でセッションを行うなど、雅楽をより身近に感じる講義となった

初めての講義を終えた東儀氏は「最後まで集中して聞いてくれたので、今後のやりがいにつながる」と手ごたえを感じた様子。学生に向けては「雅楽や音楽に限らず、恋の悩みでも何でも今解決したいことがあるなら恥ずかしがらずどんどん質問をぶつけてほしい」と人生の先輩としての温かい言葉をかけていた。

笙の試演をした神道学専攻科の尾田交之君は「型を重んじながらも、枠にとらわれない音楽の楽しみ方があることを今日は教えていただいた」と興奮気味に話した。神道学科四年の田中晶さんは「雅楽と西洋音楽はともに十二音なので、融合しやすいという話が印象に残った。卒業後は実家の神社に奉職することになっているので、今日学んだことを氏子さんたちと話す際などに活かしたい」と語っていた。

最初の挨拶で、「講義を通して何か心に得るもの、残るものがあれば」と抱負を述べた東儀氏。同講義は今後も継続して行われる予定だ。

学修・交流の場

「百船」事業が採択

学生の主体的学修と多様な交流のための空間「百船」の整備事業が、平成二十四年度の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」（文科省）に採択され、補助金の交付を受けることとなった。

この「百船」は九号館一階に設置するもので、およそ一九四平方メートルの広さを持つ。グループワーク・プレゼンテーション・カフェの三つのゾーンから成り、学生が授業の事前準備や授業後の展開、また地域の諸課題に関する自主的な勉強会などに利用でき、さらに、留学生や一般市民とも相互に学び合える場として整備したものである。学生が主体的に学ぶことができるよう、さまざまな設備・機能も用意している。これらを活用することによって、学生のさらなる成長を期待したい。なお、「百船」とは、伊勢国度会郡の枕詞に由来し、多くの船が港に集うように、学生が集い合う空間という意味を込めて名付けた。

世界遺産

「花の窟 錦の御幡献上行列」に奉仕

十月二十一日、熊野市で晴天のもと「花の窟錦の御幡献上行列」が開催された。主催は「花の窟活性化地域協議会（花の窟錦の御幡献上行列実行委員会）」（皇學館大学後援。本学からは櫻井治男社会福祉学部長が学長代理として参列。文学部神道学科の本澤雅史教授、木村徳宏助教の指導のもと、祭式研究部員・雅楽部員からなる二十一名の奉仕団が、参加者の着付けや伶人（行列道中の雅楽演奏）、行列の諸役、進行役として参加、協力した。

世界遺産「花の窟神社」から掛けられたお綱に吊るされた、縄で編んだ三本の幡を「三流の幡」という。江戸時代後期の郷土誌『紀伊続風土記』には、かつて毎年、花の窟神社の祭りの日に、朝廷から「錦の幡」が献上されていたものが、ある年、熊野川の洪水によって流されて以来途絶えてしまい、土地の人がその代わりに縄で編んだ「三流の幡」を飾るようになったと記されている。今回の「花の窟 錦の御幡献上行列」は、花の窟に「錦の幡」が献上される様子を華やかな平安行列を通じて、今に再現したものだ。

産田神社前での「進発の儀」に始まり、元タカラジェンヌ・夢輝のあさんイザナミノミコト役）を中心とする「神々宿る花の窟列」、「錦の御幡奉献の列」、「花の姫の列」と続く百人の行列は、道中大勢の観光客の迎える中を、雅楽の音とともに艶やかに進み行き、花の窟神社を背後に臨む七里御浜の特設会場で「錦の御幡献上の儀」が滞りなく行われた。

錦の御幡献上の儀（七里御浜特設会場）

花の窟 錦の御幡献上行列
http://hananoiwaya.com/nishikinomihata/kenjyougyouretsu01.html

神道学科教授　本澤雅史

倉田山春秋

歳晩の節気は、小雪、大雪、冬至と続く。冬至は、〈一陽来復〉とも称される。深い雪の下、北風に耐えながら生き抜いた人間の英知が刻印される▼最高学府としての役割は、教育と学問である。学問の深化を通じて、教育は成立する。今、知識を知恵に変換する装置が、教育現場に求められているように思われる▼優れた先人の知恵を糧に、信頼に基づく手作りの成果が、我が学園の学風を支えてきた▼奈良正倉院を詠んだ鴎外の作品がある。〈夢の国燃ゆべきものの燃えぬ国木の校倉のとはに立つ国〉（奈良五十首）。戦火にも落雷にも耐え抜き、正倉院と宝物は千二百年の歳月を今に伝える。本物の宝物を眼前に、遥かシルクロードの彼方から発見された楼蘭の古都が思い浮かぶ▼本物に親しむ心と、そこに居合わせることの幸福感とは一体である。教育も学問も、マニュアル通りにはいかない。試行錯誤の中に、本物と出会う喜びがある▼再び年が巡る。学園の隆昌が、皆様の多祥と、世界の発展につながることを祈りながら、去りゆく平成二十四年を労いたい。来る年が、一人ひとりの願いの叶う節気でありますように。

本澤教授の通夜祭・葬場祭に約九百名が参列

本澤雅史神道学科教授が十一月二十七日、上部消化管出血のため帰幽された。享年五十三。伊勢市岡本の祖霊社でしめやかに営まれた通夜祭には約五百名、葬場祭には約四百名が参列し、最後の別れを惜しんだ。

昭和三十四年、香川県生まれ。本学国文学科卒業、同大学院退学後、昭和五十九年に文学部助手として本学に奉職。平成十九年に教授、同二十三年には学生部長に就任した。本学の教育・研究活動はもとより、神社本庁の祭式講師など学会・社会活動にも幅広く従事。宗教界、教育界において多大な功績を遺した。

本澤　雅史（もとざわ　まさふみ）
皇學館大学　教授・博士（文学）

昭和34年　香川県生まれ
昭和56年　皇學館大学文学部国文学科卒業
昭和59年　皇學館大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程退学
昭和59年　皇學館大学文学部助手
平成4年　皇學館大学文学部講師
平成9年　皇學館大学文学部助教授
平成19年　皇學館大学教授
平成19年　博士（文学）皇學館大学
平成20年　皇學館大学大学院教授（兼担）
平成23年　皇學館大学学生部長

■編著書
【単著】『祝詞の研究』、『月の信仰と祭り』
【共著】『神主のための教養講座』、『訓読註釋儀式』、『践祚大嘗祭儀』、『祝詞用語用例辞典』

■学会・社会活動
神道史学会委員、鈴鹿学会常任委員、日本宗教学会評議員、伊勢国際宗教フォーラム代表・世話人、神社本庁教学委員、同神社祭祀審議会委員、同研修委員、同祭式講師、同神社祭祀審議会幹事、同総合研究所運営委員、香川県神社庁研修所講師・同参与・同祭式講師、熱田神宮学院講師、財団法人大阪国学院講師、香川県宇佐神社禰宜（兼務）、兵庫県宝塚神社禰宜（兼務）

弔辞

皇學館大学教授・学生部長

本澤雅史先生の御神霊に、謹んで哀悼のまことを捧げます。

前日まで普段と変わらぬお元気なお姿であった先生が、翌十一月二十七日に帰らぬ人となられるとは、何と申すべきことでしょうか。青天の霹靂にも似た御急逝の悲報に接し、深い信頼と尊敬、敬慕の念を抱いてきた全教職員・学生は、一様に愕然とし、悲嘆にくれています。この信じがたい現実を受け止めなければならないと、悲しみの涙をこらえながら、口惜しさに堪えつつ、最後のお別れを申し上げます。

先生は讃岐長尾の宇佐神社の社家にお生まれになり、神職となるべく皇學館大学の門を叩かれ、文学部国文学科、大学院文学研究科で西宮一民先生、粕谷興紀先生を導きの師として、日本の古典学、とりわけ『古事記』『万葉集』『続日本紀』の宣命、『延喜式』の祝詞を精読し、「古意」「大和心」を求めて訓詁の学を修められました。昭和五十九年、皇學館大学に奉職されて以来、御研究の中心は、神道理解の核心をなす「祝詞」の国学的研究に向けられると共に、昭和六十二年九月から一年間、カナダのアルバータ大学文学部宗教学科研究員として、和井田学先生に師事し、宗教学や神話学を学び、神道祭祀を広い視野から考察する素養を培われました。

このことは、広く宗教界全体の現代的課題についての問題意識の形成や専門の学問研究の発展に有益であったと拝察します。積年の研究成果は、やがて平成十八年に著書『祝詞の研究』として実を結び、学位を取得され、翌平成十九年教授に就任されました。祝詞研究の第一人者のお一人であり、研究に裏付けられた祝詞、神道祭祀、祭式指導者として高い評価を得ておられます。

神社本庁の祭式講師、神社祭祀審議会委員、総合研究所運営委員、教学委員等を務められるとともに、学界においても、伊勢国際宗教フォーラム代表・世話人、神道史学会委員、日本宗教学会評議員等を務め、幅広い学会活動に努め、それぞれ篤い信任を得ておられました。

先生は若い頃から学問研鑽に打ち込むと共に、学生の教育にも極めて熱心で、寮監を四年間、学生委員長・寮主任を四年間、都合八年間、学生生活指導の第一線に立たれました。研究者としてはややもすれば避けたい役職を、むしろ楽しみ、学生をこよなく愛し、情熱を注がれました。寛厳よろしきを得て、謹直にして親しみ易く、時には酒を酌み交わしながら談じ、歌い舞い、至誠と熱血溢れる優れた指導力を発揮されました。重厚にして泰然自若とした風格と、安定感のある判断力は、自ずから人々の信頼を集め、平成二十三年から学生部長の要職に就かれ、いよいよ御多忙の度を加えられたのではないかと思います。

現在、大学にとって一つの課題となっています地域社会との連携、貢献活動についても、創意工夫を加えられた企画書をお出しいただきました。先生は実践躬行の人で、ごく最近も熊野の花の窟、錦の御幡献上行列に、自ら部長を務める祭式研究部・雅楽部員を指導して奉仕活動をされました。

今年、皇學館は創立百三十周年・再興五十周年を迎え、いよいよ大学の将来構想を練り、新しい出発を期そうとしていた矢先、これからの大学の真木柱と頼む先生を失ったことは、無念この上ありません。先生の獅子奮迅の御活躍に格別の期待を寄せておりましたし、先生御自身も大きな抱負をおもちでありましたのに、このように果無く挫折しようとは、まことに痛嘆の至りであります。

しかしいたずらに嘆きの言葉を連ねることは、おそらく先生の喜ばれないことでしょう。生涯を捧げられた母校皇學館大学が、創立記念行事の祭典において、先生が奏上された祝詞に表明されたように、建学の精神を堅持し、いよいよ内外に充実発展することこそ、先生の御霊を慰める唯一の道であります。私共は、先生が本学のために尽力され、殊に学生を熱愛して指導してくださった御功績を、学史に残る尊い足跡として、永く忘れることはないでありましょう。

在りし日の面影を偲びつつ、哀惜の情切々として尽きませんが、最後に多年の御尽力に心から感謝申上げ、謹んでお別れの言葉といたします。どうか安らかにお休み下さい。

わが友よ　天翔りても
学び舎の　行く末安く
見守りたまへ

平成二十四年十二月二日

皇學館大学長　清水　潔

101名が教員に合格

平成24年度 教員採用試験

平成24年度実施
三重県公立学校教員採用選考試験結果（2次合格者）

三重県

校種・教科等		現役	過年度	皇大計
小学校		28	46	74
中学校	国語	0	3	3
	社会	1	3	4
	保健体育	0	0	0
	英語	1	2	3
高等学校	国語	0	1	1
	地理歴史	0	0	0
	公民	0	0	0
	保健体育	0	1	1
	英語	0	1	1
	福祉	0	1	1
特別支援学校小学部		0	0	0
合計		30	58	88

※「現役」は本学４年次生、「過年度」は本学卒業生、「皇大計」は本学４年次生及び卒業生の合計

三重県以外
（現役のみ）

小学校	
東京都	1
神奈川県	2
横浜市	1
川崎市	1
愛知県	3
京都府	1
大阪府	1
大阪市	1
兵庫県	1
北九州市	1
計	13

三重県小学校は四〇％増

平成二十四年度教員採用試験二次試験の結果が発表され、本学からは全国で二〇一名、うち、三重県では八十八名（現役は三十名）が合格を果たした。とくに、三重県小学校は既卒を含めると昨年度の五十三名から七十四名と四〇％増の大躍進だ。

〈教職支援担当〉では倍率、難易度ともに高い教採試験に備え、個人指導を徹底。四名の教職アドバイザーと三名の職員が進路相談や履歴書・論作文添削、集団討論、各種面接練習等を担当している。さらに、採用試験直前期には、学部教員による実技特訓（ピアノ、器械体操、リスニング）を実施。また、一年生から個人面談および論作文指導を行い、教育問題等について調べ学習に取り組むなど早期から意識を高めるよう対策を講じている。合格者が増加している要因の一つは、こうした支援策が功を奏したといえよう。教職志望者はこれらの制度を積極的に活用し、入念な準備をして試験に臨んでほしい。

保護者は〝見守り〟を

保護者対象 就職講演会・説明会を開催

ほぼ満席となった会場

倉陵祭三日目、十一月四日に保護者向けの就職講演会・説明会が開催された。昨今の就職環境の実情を知っていただき、家庭でも学生の活動をサポートしてもらうのが狙いだ。

当日は、昨今の就職不況を見据えてか約百二十名の保護者が来場。キャリア救急センター代表の片岡佑之先生による「子供の就活を考える―親のかかわり方」と題する講演では熱心に耳を傾け、メモをとる姿が見られた。講演後は「神社関係」「教員・保育士」「官公庁・福祉」の三つの会場で進路別による説明会を実施した。

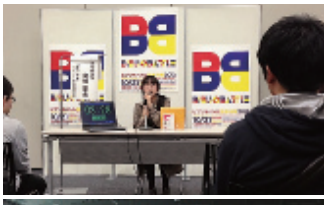
参加した保護者の一人は「片岡先生の『親の価値観を押し付けないで』という言葉が印象に残った。『社会人の先輩としての社会経験を語ってあげてほしい』とおっしゃっていたので、帰ったら子どもと仕事の話をしようと思う」と話していた。教職の進路説明会に参加した両親は「教員採用試験の現状を知ることができ、とても勉強になった。大変だとは思うが、学校側の支援体制が充実しているので安心しておまかせしたい」とホッとした様子で語った。

本学においては個人指導に重点を置いており、たとえば指導教員はウェブ上で教育記録の蓄積や管理ができるeポートフォリオを活用して各学生の就職活動状況を共有し、きめ細やかなサポートをしている。ほか、就職支援室では各種ガイダンスをはじめ、公務員等の試験対策講座や資格支援講座を開講。外部団体の協力を得て本学での出張相談や面接指導、企業プレゼンテーション大会・学内合同企業説明会など支援内容は多彩だ。

就職活動は厳しいもの、人間的に大きく成長できる場でもある。保護者の方は見守りを、学生には今後の人生設計、自分自身の特性を見つめ直す好機ととらえ、前向きに取り組んでもらいたい。

知的書評合戦 ビブリオバトル全国大会に初出場

十月に東京で開催された「ビブリオバトル首都決戦2012」に本学国文学科三年の奥野実希さんが三重県代表として出場した。〈知的書評合戦〉とも呼ばれる同イベントは昨今、大学を中心に全国的なブームとなっており、本学でも今年七月に書評サークル「ビブロフィリア」が立ち上がるなど、盛り上がりを見せている。



上／ビブリオバトル首都決戦2012準決勝の様子
下／ハーフタイムのトークショーの様子

人を通して本を知る 本を通して人を知る

「知的書評合戦」と呼ばれるビブリオバトルは平成十九年に京都大学で始まったもの。五分の持ち時間で自分が好きな本を紹介し、「もっとも読みたくなったのはどの本か？」を基準に聴衆に投票してもらい勝負を決めるゲームだ。シンプルなルールのため気軽に参加でき、また、数人が集まれば手軽に実施できることから、現在は全国各地の大学をはじめ、小中高等学校や図書館、書店、企業などにも普及している。

本学では今年七月に書評サークル「ビブロフィリア」が発足。東京で開催された全国大会「ビブリオバトル首都決戦2012」には、メンバーのひとり、国文学科三年の奥野実希さんが三重県代表学生として出場した。

「人を通して本を知る／本を通して人を知る」というのが、ビブリオバトルのコンセプトです」と話すのは、同サークルの顧問を務める岡野裕行国文学科助教。「いろんな本に巡り合えるだけでなく、本選びの視点やプレゼンの仕方に人柄が垣間見えて面白いんです」と、ビブリオバトルの魅力を語る。また、「こうした大会への参加は全国各地の大学生と交流できる絶好の機会なので、来年はより多くの学生に挑戦してほしい」とも。知的好奇心をくすぐる新しい本の楽しみ方の、さらなる広がりに期待したい。

ビブリオバトル
http://www.bibliobattle.jp/

「思い」伝える、その魅力
―ビブリオバトル首都決戦に出場して―

国文学科三年　奥野実希

十月二十一日に行われた、ビブリオバトル首都決戦。私は三重県代表として出場しました。地区決戦時の観客数とは桁外れに違う人数に圧倒され、本番でも場の空気に呑まれてしまったのは今尚悔やまれるところです。

しかし、首都決戦で得たものは大きかったと思います。出場者それぞれの思いが凝縮されたプレゼンはどれも魅力的で、強く心を動かされました。同時に、自分にとってかけがえのない本を他人に紹介することの難しさと楽しさを改めて感じました。また、自分と接点のなかった分野の人と繋がることができたのは、大きな収穫でした。様々な学部の人と話すのは刺激的で、大変有意義な時間を過ごすことができました。

私はビブリオバトルサークルで活動する中で、人と好きな本を共有する嬉しさを知り、今回の首都決戦で改めてその魅力の奥深さに気付きました。今後は単に登壇者、或は観客として参加するだけではなく、この楽しさをより多くの人に広めていきたいと思います。

お仕事拝見

本学と連携協定を結んでいる伊勢市。このコーナーでは〝地元愛〟を町づくりに活かすスペシャリストである伊勢市役所の方々にこれまでの取組みや伊勢の魅力について語っていただきます。

〈少子化〉を〈笑子化〉に

古布 武 健康福祉部こども課長

将来を担っていく子どもたちを育てていくのは、保護者の方の役割が大きいと考えられます。しかしながら少子化の進行している社会において、もう少し大きな視点でとらえれば、まち全体で子どもたちを育てていく必要があります。伊勢市では、公として出産や子育てを応援し生み育てやすい環境をつくることで、「少子化」を「笑子化」に変え、伊勢のまちの宝である子どもたちが元気に成長できるまちを目指しています。

こども課では、様々な子育て支援事業を行っています。保育所や子育て支援センター、児童館、放課後児童クラブの運営に関することや、各種手当の支給業務、また子育てなどの相談業務を行っています。そのような中、要保護児童対策、児童虐待等の相談業務について、関係機関と連携し充実を図るため、平成二十三年度からこども家庭相談センターを設置いたしました。DV（ドメスティック・バイオレンス）や女性相談についても関連することが多いため、相談事業を一元化することにより相談体制の強化を図っています。

現在学生である皆様も、将来、結婚し子育てをする時期がやってきます。また皇學館大学の学生さんの中には、保育所での教育実習に来ていただいている方もみえますが、ぜひ保育士を目指していただきたいと思います。子育てには不安や負担がつきものですが、子どもと向き合いふれあいを大切にしてください。

外宮まがたま池で能楽を奉納
能楽同好会

生き別れた子と再会する狂女物「百萬」を舞う能楽同好会委員長の西田さん

倉陵祭が行われた十一月三日の文化の日、本学能楽同好会による神宮への謡・仕舞の奉納が外宮まがたま池奉納舞台で行われた。

同会は、日本の伝統文化を学ぶための講座「伝統の心と技（能楽）を受講した学生が中心となり、平成二十一年度に発足。同講座の講師を務める観世流シテ方能楽師の観世喜正先生の指導を受けながら謡・仕舞の稽古に励み、毎年倉陵祭でその成果を披露してきた。四年目となる今年度、神宮への能楽奉納として初めて学外で披露することになった。

晴天に恵まれた当日、全員が外宮の御正殿へ参拝をしてから舞台に臨んだ。まず、観世先生が天女を演じる能「羽衣」を奉納。ワキ方や笛、鼓、太鼓などの囃子方などいずれも観世流のプロが演じるだけあって、楓が紅葉し秋の気配が深まりつつある池畔全体が幽玄の世界に染まっていくような情感に包まれた。続いて、学生たちが「絵馬」の連吟をはじめ、「鶴亀」「菊慈童」「経正」「猩々」「百萬」などの仕舞を次々と奉納。物語の主役は中国の皇帝、武士の亡霊、酒飲みの妖怪……とじつに多彩で、それぞれ優雅さだけでなく、壮絶さを感じる激しい動き、楽しげで繊細な舞なども見られ、〝世界最古の演劇〟の奥深さが感じられた。

「素晴らしいロケーションのもと敬虔な気持ちで演じることができ、学生たちも普段以上の力が出せたのではないでしょうか」と観世先生。一時間余りの奉納に魅入っていた観客も、「きれいな鼓の音が響くなか木々が揺らめいたとき、本当に神様がいるのかと思いました。こういう機会を持てる学生さんたちは恵まれています」（伊勢市の五十代女性）、「観世先生の舞台が観られて良かったです。学生たちも一生懸命舞っていて、初心が大切だと改めて感じました」（松阪市の三十代男性）と満足の様子。

最後の仕舞「百萬」を舞った同会委員長の西田豊子さん（神道学科三年）は、「直前まで緊張していたのですが、面を付けると自分の世界に入っていけました。お見苦しくなかったとしたら、神様のおかげです」と、ほっとした笑顔で語った。

皇學館高校 吹奏楽定期演奏会を開催

九月二十二日、二十三日の両日、伊勢市観光文化会館において皇學館高校吹奏楽部による定期演奏会が開催された。吹奏楽コンクールでは三年連続三重県代表になるなど、着実にレベルを上げている同部。演奏会を始めて五回目となる今年は日本を代表する打楽器奏者・安藤芳広氏をゲストに迎え、プロの冴えわたるスティックさばきや華麗な競演が堪能できるスペシャルな内容となった。

演奏された曲目は「春の猟犬」や「スペイン狂詩曲」などクラシック音楽のほか、いきものがかりの「風が吹いている」や美空ひばりメドレーなど十曲。演奏もさることながら、ソロ演奏やステージパフォーマンスをふんだんに取り入れたエンターテインメント色あふれる内容に会場も手拍子で応え、熱気に包まれた演奏会となった。

AKB48の「Everyday カチューシャ」では演奏とパフォーマンスのコラボが楽しめた

伊勢市内から訪れたという四十代の主婦は「音が揃っていて迫力があった」と興奮気味に話し、「来年もぜひ来たい」と満足げに語った。幼稚園と小学生の子どもを連れた夫婦は「レベルの高さに驚いた」と言い、「機会があればまた聴きたい」と感想を話していた。

皇高祭　テーマ　絆

9月19・20日

祭典

厳かに執り行われた祭典。

●吹奏楽部　迫力あふれる演奏に会場全体で盛り上がった。

記憶に残る祭りに

9月19日、20日に第50回となる皇高祭が催され、1日目は伊勢市観光文化会館において祭典、義足のハイジャンパーで北京パラリンピックでは5位に入賞した鈴木徹氏による講演、福岡出身の若手アーティスト・伊藤祥平氏による演奏が行われた。祭典に参列した生徒代表2人は前日から入念にリハーサル。吹奏楽部のメンバーもこの日のために練習を重ね、当日はいずれも素晴らしい立ち居振る舞い、パフォーマンスを見せ皇高祭最高のスタートとなった。

2日目は皇學館高校にて1、2年各クラスの出し物、クラブ展示、有志による自由演奏が行われた。出し物はどのクラスも工夫を凝らし、少しでも盛り上げよう、たくさん売ろうと奮戦。演奏は放送部と有志の頑張りによって体育館に大きな声援・拍手が起こり、大成功をおさめた。そして、最後は校友会主催のジャンケン列車。勝ったり負けたりするたびにあちこちで歓声が上がり、大いに盛り上がった。「記憶に残るとても素晴らしい皇高祭になった」とは校友会副委員長の鬼頭雄也君。さらに、「みんなにとっても充実したものであったら嬉しい」と語り、手ごたえを感じた様子だった。

皇中祭　テーマ　みんなでつくる物語 ～最高のフィナーレを目指して～

11月3・4日

生徒の成長がキラリ

今年の皇中祭は3年に一度の記念行事が開催される年にあたり、吉本のお笑い芸人である「ギャロップ」や女性マジシャンの小泉エリさん、落語家の桂三輝さん、伊賀出身のシンガーソングライター・大知正紘さんが来校。イベント盛りだくさんの内容となった。

1日目に行われたのは合唱コンクールと記念行事だ。合唱コンクールでは「時の旅人」「信じる」などの課題曲に加え、「エール」「明日への扉」といった自由曲を各クラスが熱唱。観覧に来ていた保護者は「去年より子どもが成長したと思う。クラス全体のまとまりも感じられた」と感慨深げに語った。午後に行われた記念行事、小泉エリさんのマジックと「ギャロップ」の漫談では巧みな話芸で会場を爆笑の渦に巻き込んでいた。

2日目はクラス展示が行われ、「百人一首の世界」「トリックアート」など、それぞれに趣向を凝らした展示で来場者の目を引いていた。オリンピックを題材にした2年A組の山下加衣さんは「時計台作りが難しかったが、みんなで力を合わせて完成できたのが嬉しかった」と笑顔で語った。

課題曲「TAKiOのソーラン2」を踊りのパフォーマンスもまじえ熱唱する生徒。優勝は3年A組、準優勝は3年B組。

びたりと息のあった合唱に耳を澄ませる保護者たち。我が子の成長ぶりを目にする貴重な機会にもなったようだ。

合唱コンクール

記念行事

「ギャロップ」の髪の毛をネタにした自虐漫才に大笑いする生徒たち。

クラス展示

クラス展示は観覧しに来校した保護者の方々にも審査をお願いした。投票の結果、みごと優勝したのは1年A組の「百人一首の世界」!

学園祭フォトギャラリー

9月下旬から11月上旬にかけて、大学・高校・中学校の各学び舎で学園祭が開催された。イベント内容や運営の仕方など、学生・生徒が中心となり創り上げることで人としての成長の場ともなっている祭典だ。今年はどんな企画やアイデアが盛り込まれたのか、それぞれの模様を写真を中心に紹介する。

倉陵祭

11月2・3・4日　テーマ　進～すすむ～

●祭典　厳かに執り行われた祭典。

地域ぐるみで楽しむ

「何をもって〝成功〟とするのか。それを突き詰めることから始めました」と語るのは、倉陵祭実行委員長の平田峡介君(国文3年)だ。得た結論は、「来場者が〝楽しかった〟と思うこと」。めざす方向が定まると、アイデアがどんどん湧いてきた。恒例のアーティストライブにはより広い地域、年齢層からの集客を狙い、アニメソング界の歌姫・LiSAさんを抜擢。狙い通り、ライブ当日は朝早くから整理券を求める長蛇の列ができた。小さいお子さんのいるファミリー層にも気軽に来てほしいと、託児所を設けたのも初めての試みだ。模擬店の並びにもこだわり、各ブースの間を狭くして祭りの屋台さながらの賑やかな雰囲気を醸した。そうした工夫が功を奏してか、今年の来場者は例年にまして老若男女が入り混じる多彩な顔ぶれに。テーマ「進」のごとく、学内のみならず地域市民に喜ばれる祭りとして歩を進めたようだ。次はどんな進化を遂げるか――来年の倉陵祭に期待が膨らむ。

「去年の倉陵祭のテーマである〈歩〉から一歩踏み込んで〈進〉にした」と話す実行委員長の平田君。

●整理券を求める行列

LiSAさんのライブチケットを目当てに、最後尾は皇學館高校の敷地に迫る長い列ができた。津市内の男子高校生は「ライブが聴きたくてやって来た。倉陵祭は初めてだが、たくさんの人がいるのに驚いた」と話していた。

●教員ビブリオバトル

今年、初めて行われた教員ビブリオバトルは齋藤平先生と岡野裕行先生の一騎打ち。結果は…岡野先生の勝利！ 教員の新たな一面が見られるとあってか、会場には学生の姿が多く見られた。

●芝生広場

新しく建てられた9号館前の芝生広場では休憩したり、おでんや水餃子など模擬店の食べ物を楽しんだりする来場者でにぎわった。

●樽神輿

「ヤマタノオロチ」をモチーフにした神道学科2年が優勝！

●屋外ステージ　圧倒的なダンスパフォーマンスで観客を魅了したよさこい部「雅」。

●子ども広場

倉陵会館ではクッキーづくり、ペーパークラフト教室、劇「ねむりひめ」が開かれた。託児スペースもあり、ファミリー層が多く訪れた。

チームワークを高めた体育大会

第五十回 体育大会

今年の体育大会はいつも以上に盛大に行われた。午前中は今にも雨が降り出しそうな天気だったが、生徒や先生方の元気のおかげか午後からは太陽がサンサンと照りつけるほどの良い天気となった。今年から行進の得点化が始まったので、各クラスとも気持ちの込もった掛け声を出したり、足をしっかりと上げていて、とても引き締まった開会式となった。午前の部は百メートル走やクラス対抗二十人リレーなどがあった。二十人リレーでは負けたチームも勝ったチームも一つとなり、一生懸命に走っている姿がとても印象的だった。午後は学年対抗綱引きがあり、多くの生徒が応援に集まり最も盛り上がった競技の一つだと思う。

奮闘する先生方

選抜リレーでは先生と生徒が対決するとあってとても白熱した戦いに。いつも勉強を教えてくださっている先生方が意外に速かったので驚いた。体育大会を通して先生との交流をはかれたので、とても有意義だった。二十人リレーの決勝では下剋上が起こり、一年二組が勝った。こういったことも体育大会の醍醐味だと思う。

この体育大会を通して僕ら生徒が得たのはクラスのチームワークだ。勝ったチームも負けたチームも一員として友情を深められた。こうした行事を通してクラス、学年、学校全体が少しずつでも一体化していけば良いと思う。僕は総務委員長として、これからの学校行事も成功させるために努力したい。

総務委員　山口　嵐

修学旅行 北海道

函館山からの夜景に感動

二年十組　木下　柊

五十鈴川に朝集合してから伊丹空港に着くまで、時間の経過が早く感じた。飛行機に乗ってからは雲が多く、揺れていたのでとても不安だったが、函館に着く前に青森県の地形がくっきり見えたのは嬉しかった。

トラピスチヌ修道院が想像していたよりも広く、驚いた。ガイドの方からキリスト教を信仰する女性でも必ず修道院の中へ入れるわけではないことを聞いて、厳しいんだなと思った。その後、函館山に行き、世界三大夜景と評される素晴らしい光景を見ることができた。雨が降りそうだったので不安だったが、いい眺めを写真に収めることができて良かったと思う。明日もしっかり見学して、楽しい思い出をつくれるようにしたい。

函館山からの夜景

反省点も含め、よい経験に

二年七組　皿屋　真里

誰ひとり欠けることなく、無事、三重に帰ってくることができたのは喜ばしいことだ。この四日間は新鮮なものがたくさんあり、様々なものを見て、感じることができたので、とても良い経験になった。そして、またきっともう一度、今度は時間をたっぷりとって来たいと思った。北方領土も遠目でいいから見てみたい。簡単に解決できることは無理だが、時間をかけてでも、良い方向にいってほしいと思う。この旅行では学んだことがいろいろあり、充実したものだった。クラスメイトのいろいろな一面や意外(?)な所も見えたと思う。何が一番良かったかと聞かれると、すぐには答えられないほどたくさんあったように思う。もちろん、反省すべき点もたくさんあった（部屋長としての責任とか……）。クラスでは、メリハリや周りの状況を見て判断し、行動することがやはり反省すべき事だと思った。

皇高NEWS

仲間の活躍に惜しみない声援

第三十三回 体育大会

九月二十二日に体育大会が開催され、青空の下、生徒たちは力を合わせて活躍した。

午前の部最初の入場行進はクラスの団結力を感じさせるものであった。競技が始まると円陣が組まれ、各クラスの気合いの声が運動場中に響き渡った。また、誰もが精一杯仲間の活躍を応援していた。

クラス一致団結して頑張りました！

クラス全員十一脚は気迫に満ちたものであった。ゴールにあるマットに勢いよく飛び込むように止まる。誰もこけたりする事なく全てのクラスがゴールでき、完走した後は皆笑顔が輝いていた。ニコニコボールでは一年生が苦戦し、トップがゴールしたときには一周以上の差があった。しかし、全学年で「頑張れ、もう少しだ！」と声援を送り、一緒に走る姿が見られた。最後には皆でゴール！　学年関係なく応援する生徒たちの姿はとても感動するものであった。

午後の部では騎馬戦の代わりに竹取合戦が新競技となった。クラスで作戦を立て、竹を引っ張り合い、「次はこっちだ！」と声を掛け合い白熱した。最後の競技、二十人リレーでは順位の入れ替わりの度に生徒たちのボルテージも最高潮になり、盛り上がりを見せた。結果は総合優勝三年A組、準優勝二年A組となり、今年の体育大会が終了した。

達成感を感じた最高の大会

三年B組　稲吉　咲良

「位置について、よーい、ドン！」

ピストルの音が高く響いた。同時に私たちの足も白線を越えた。みんなで大きな声で「いちに、いちに」と言いながら走った。大きなクッションが目の前に迫ってくる。その上に乗ると、とても熱かったけどとても嬉しかった。私たちには達成感があった。今までクラスのみんなと一緒に練習をしてきたからだ。一、二年生の時のクラス全員十一脚はどちらもゴールするまでに一度は誰かがこけてしまっていた。今年は距離が前に比べて短く感じて、誰もこけずにみんなでゴールできた。他の競技も良かったけど、クラス全員十一脚は私の中で一番、印象的だった。

結果は三位だったけど、みんなが団結してたくさん応援したり、されたり本当に良かったと思った。私は三年B組のメンバーで体育祭の練習したり本番を迎えられてうれしく思う。三年間で一番楽しめた体育大会になった。

二人三脚リレーでゴール！

皇中NEWS

大合唱で盛り上がる

平成二十四年度 伊勢市連合音楽演劇発表会

十一月十六日、伊勢市観光文化会館にて伊勢市連合音楽演劇発表会が行われた。一年生と二、三年生の合唱同好会が出演し、「むこうむこう」と皇中祭で発表した「TAKiOのソーラン2」の二曲を披露した。

「むこうむこう」は練習時間が少なかったが、心を込めて歌うことができた。また、「TAKiOのソーラン2」ではソーランを踊る生徒と共に元気良く発表することができ、素晴らしい舞台となった。発表の最後には全学校で「COSMOS」、「夢の世界」を歌い、最後の「さようなら」では手話を交えながらの大合唱で大変盛り上がり、幕を下ろした。

全学校での大合唱で一生懸命歌う１年生

寄付者芳名

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業

同周年記念事業は募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いており、十月三十一日現在の募金状況は次の通りです。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも、ご賛同をお願い致します。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業寄付金進捗状況

平成24年10月31日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企　業	42	4,240,000	4,200,000
一　般（旧教職員・篤志家等）	18	575,000	575,000
同窓会会員	192	7,500,000	7,500,000
後援会賛助会員	75	1,235,000	1,235,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合　計	455	17,685,000	17,595,000

お知らせ

皇學館中学校 入試日程

A日程　募集人数は約60名

試験日時
平成25年１月12日(土)
9:30より

試験科目
国語・算数・作文（各50分・100点）

出願期間
平成24年12月10日(月)～26日(水)
9:00～15:00
※15日(土)は正午まで、16日(日)・22日(土)・23日(日)・24日(祝)は受付ができません

B日程　募集人数は約10名

試験日時
平成25年１月20日(日)
9:30より

試験科目
国語・算数（各50分・100点）

出願期間
平成25年１月15日(火)～19日(土)
9:00～15:00
※19日(土)は正午まで

第１・３・５土曜に学校見学ができます（祝日を除く）。
詳細は皇學館中学校（☎0596-23-1398）までお問い合せください。

現代日本塾を開催

各界の第一人者を講師に定期開催されている現代日本塾。今回は第十九・二十回・二十一回の模様を紹介する。

第十九回 十月四日開催
新渡戸稲造の精神
―インターナショナリスト―
講師●草原克豪先生（拓殖大学名誉教授）

真の愛国者・国際人とは

草原克豪先生は北海道出身。文部省入省後にコーネル大学に留学し、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）に勤務された経験を持つ。講演では、こうした自身の経歴に縁の深い新渡戸稲造に関する研究の成果を発表。新渡戸稲造（一八六二～一九三三）が札幌農学校に学んだ後アメリカ留学を経て農業学を修め、台湾の農政経営に貢献したこと。また、大学教育のみならず社会人教育にも心血をそそぎ、堪能な英語で「武士道」を執筆、ロンドンおよびジュネーブでの国際連盟初代事務次長を勤めるに至ったことや、その連盟での仕事が、現在のユネスコの創設に繋がっていることなどをお話しいただいた。

新渡戸稲造の業績、また草原先生の活躍を通じて真なる人格主義教育の意義と、偉大な愛国者・国際人となってゆくべき道筋を示していただいた。

第二十回 十月十一日開催
東日本大震災で考えたこと
―地域と連携して防災対策を―
講師●青山俊樹先生（元国土交通事務次官　本学特別招聘教授（平成二十五年四月就任予定））

青山俊樹先生は国土交通事務次官として平成十四年まで国の防災行政に長く携わってきた。その経験に基づき、講演では東日本大震災当日の貴重な映像とともに災害の概要を紹介。防災ヘリ出動などの初動対応や直後の災害対策室の立ち上げ、その後の幹線道路・航路・港湾等の啓開作戦など行政の取り組みと、今後想定される東南海地震などへの対策等をお話しいただいた。多くの尊い命が失われたこの震災を教訓に、私たちも地域とより一層連携を深めながら、防災対策を充実させたい。

第二十一回 十月二十五日開催
アマテラス大御神と日本人の心
―天照大御神が日本人の心を形成―
講師●吉田敦彦先生（学習院大学名誉教授）

講演では、世界のさまざまな神話と古事記および日本書紀にあらわされた日本の神話を詳細に比較されたこれまでの研究成果を踏まえ、「天照大御神さまの慈悲深いお心が世界に比類なき日本人の心の特質を形成した」ことを吉田敦彦先生に解りやすく解説していただいた。世界の中での天照大御神さまのご神徳を新たに教えていただく、まさに古事記上撰千三百年の秋にふさわしいご講義となった。

県内企業が約三百名にPR

学内企業説明会＆情報交換会を開催

熱心に話を聞く学生たち

十一月二十八日、百五銀行協力のもと、三重県下二十二社三十四名の人事・採用担当者を招いて学内企業説明会が開催された。本学からは清水学長以下、学部長、事務局長はじめ就職担当教職員が学生の就職支援の対応にあたった。

本格的な就職活動を目前に集まったのは、企業就職を希望する三年生約三百名。就職戦線を勝ち抜いた内定者（四年生）による就活体験報告、業界の魅力や市場の動向など、各社のプレゼンテーションを真剣な表情で聞いていた。続いて行われた個別説明会でも積極的に質問する姿が見られ、学生の就活意識の高まりが感じられた。参加した学生からは「知らない業種や職種に興味を持つきっかけになった」「内定者の話が参考になった」「各企業の特徴、内容を比較して検討できた」などの声が寄せられ、満足度は高かったようだ。

説明会終了後、人事・採用担当者と本学教職員との情報交換会も開催され、今求められる人材像や業界の動向といった具体的な情報を共有する機会となった。地域社会の活性化や発展に貢献しうる人材の養成は本学の使命である。今後も全学一体となって学生への就職支援に取り組んでいく。

十五校四十名が参加

第十三回 高校生英語スピーチコンテスト

文学部コミュニケーション学科が開催している高校生英語スピーチコンテストが十月二十八日、行われた。初参加の学校もいくつか見られた今年は十五校四十名がエントリー。参加者はそれぞれ教科書や副読本などを題材に、約三分間のスピーチ（暗唱）を行った。なかには、小道具を用意するなど工夫をこらした参加者も。また、当日の司会進行も英語で行われ、コミュニケーション学科の学生がスタッフとなって進めた。

厳正な審査の結果、一位に輝いたのは高田高等学校二年の小澤美友さんだ。「Like Chihiro」と題する、画家・いわさきちひろについてのスピーチをした小澤さんは、「もともと暗記は苦手だが、何度も何度も練習した。緊張して声が小さくならないように注意して、聴衆の目を見て対話するように、また後ろの人にまで声が届くようにスピーチをした。昨年は二位入賞で悔しい思いをしたので、今回は優勝できて本当に良かった」と喜びを語った。

大会会長のコミュニケーション学科主任、豊住誠教授は、「良質の英文の暗記は英語学習において効果的。本大会が高校生の皆さんが英語力をつける一助になれば嬉しい」と感想を述べた。入賞者（抜粋）は以下のとおりで、それぞれ表彰状と盾、副賞の図書カードなどが贈呈された。

第一位　小澤　美友（高田高等学校二年）
第二位　馬　驍慧（津西高等学校一年）
第三位　水口　佑華（伊勢高等学校二年）

ハイレベルな闘いを制し、優勝した小澤さん（右から4人目）

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付金進捗状況

平成24年10月31日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	778,347,000	772,637,000
館友	736	82,534,000	80,399,000
篤志家	57	40,040,000	39,920,000
萼の会	1,892	101,241,000	101,241,000
企業	109	63,570,000	62,330,000
本法人関係	260	60,372,000	60,132,000
合計	3,688	1,126,104,000	1,116,659,000

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきました。■館友／1名

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付者芳名

周年記念事業につきましては、お陰様をもちまして盛会に終えることができました。ご協力を賜りました皆様には感謝申し上げます。なお、本募金の依頼は昨年度末をもち終了いたしましたが、お申込み頂きました寄付金につきましては継続させて頂きます。

館友

神奈川県
五万円　堀井　純二様

奈良県
五十五万円【五十万円増額】
星田　道夫様

先輩、お元気ですか

OB・OG訪問

大西　由希子 氏

サックス奏者、作編曲家

皇學館高校第四十期（平成十七年三月）卒◆高校卒業後、AX MUSIC SCHOOLを経てエリック・マリエンサル氏に弟子入り。十九歳でプロデビュー。

高校入学までの自分は目標も夢もありませんでした。でも高一の時、音楽部でサックスに出会い、私の人生は変わりました。

サックスの音を出せた瞬間、世界一のプロになりたいと思ったのです。それから、毎日必死で練習しました。放課後、グレン・ミラー・オーケストラの来日公演を見に行き、公演後に会場裏で出待ちし、出てきた彼らの前で、聴いて貰いたい一心でいきなり一人でサックスを演奏した事もあります。彼らは笑顔で踊りだし「君も一緒に明日からツアーに参加しないか？」と言ってくれました。

高校卒業後は専門的に音楽を学びました。世界最高峰のサックス奏者であるエリック・マリエンサルに学びたくて、彼の来日時に関係者の方にレッスンを申し込みました。何度も断られましたが、コンサート会場の楽屋まで行き直接本人に頼み込んで弟子にして頂けました。努力していたら沢山の人々が手を差し伸べてくださり、次々と道が切り開かれていきました。十九歳でプロデビューでき、コンサートやテレビCM音楽の作曲演奏、ウェブテレビ番組配信などの活動をしています。

また、WBA世界ボクシングタイトルマッチのリング上で国歌を独奏したり、アメリカのオーディオメーカー「KOI」のイメージキャラクターを務めたり、アメフロ芸能人有名人ランキングで一位も獲得しました。音楽の世界に限らず、ファッションやスイーツの業界において私自身のブランドもできました。

辛い事や大変な事もありますが、サックスの存在によって乗り越えられています。

何の夢もなくただ毎日を送っていた私はサックスと出会ってから人生が変わりました。たった一度の人生なので、皆さんも自分の信じた道を突き進んで頑張って下さい。

イベント情報(12~2月)

12月

22(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「松尾大社における神仏習合と神仏分離」
◆河野訓 文学部教授

1月

12(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「第２代 綏靖天皇」
◆白山芳太郎 文学部教授

26(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「那智における神道と仏教」◆河野訓 文学部教授

2月

2(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「会津の藩風と神道」
◆松本丘 文学部准教授

9(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「第３代 安寧天皇～第４代 懿徳天皇」◆白山芳太郎 文学部教授

16(土) 431教室
第５回皇學館大学ビジネスプランコンテスト公開プレゼンテーション大会(２次評価)
皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「太宰府天満宮における神仏習合と神仏分離」
◆河野訓 文学部教授

23(土) ふるさと講座　名張市武道交流館いきいき多目的ホール
名張と万葉集◆大島信生 文学部教授
皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「古文書を読もう①」
◆岡野友彦 文学部教授

●各講座の詳細につきましては、**本学ホームページ**にてご確認いただきますようお願い致します。
●**共催講座**(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、**有料**です。お問い合わせは**近鉄文化サロン阿倍野**(☎0120-106-718)へお願い致します。
●その他お問い合わせは、**皇學館大学企画部**(☎0596-22-6496)へお願い致します。

編集後記

◆本澤雅史先生が急逝されました。先生は学内外で数々の要職を務められ、多忙な毎日を送られていました。温厚で面倒見の良いお人柄は、学生はもとより教職員の誰もが認めるところでした。企画部においても、マスコミからの急な取材依頼をいつも快くお引き受け頂きました。本学創立百二十周年を迎え、また来年度式年遷宮を迎えて、ますますのご活躍が期待されるこの時期に突然の訃報、誠に残念でなりません。先生のフェイスブックに綴々と寄せられる学生や卒業生からの悲しみのコメントが、先生の人望の厚さを物語っています。本澤先生ありがとうございました。どうか安らかにお休みください。【企画部】

第２回 ケント大学夏季短期留学

ゴールは"輝く"こと!

—Our goal is to shine!—

文学部教授　池田久代

【８月21日】英国で最も美しいといわれるリーズ城での全体写真

第２回ケント大学夏季短期留学が８月３日から30日までの28日間、実施された。今回はロンドンオリンピック開催という記念すべき年にあたり、参加した24人の学生たちにとってひと際思い出深い滞在になったようだ。以下に学生を引率した池田久代教授の報告と学生の体験記を紹介する。

雅楽に茶道、生け花……英語を通した異文化交流

今年の英国ケント大学滞在は、肌寒い英国の八月にしては珍しく気温が三十度前後まで上昇することもあり、英国の風物詩である突然のシャワーも比較的少なかった。皇學館大学主催の恒例の「ジャパニーズ・カルチャー・イブニング」(第二回)も八月十五日、会場の人いきれと熱気に包まれて無事終了した。今年は茶の湯の席のみならず、書道、切り絵、折り紙などのテーブル(ワークショップ)や寧楽(ならく)(雅楽)の披露などを学生主導で企画実行した。大学のスタッフや教員に加えてケント大学滞在中の外国人留学生たちがたくさん参加して、楽しい国際交流の場となった。二十四人の学生たちは自然体で楽しげに日本文化を説明し(もちろん全て英語で!)、彼らの見えざる力が余すところなく発揮された。キャンパスに咲く花を摘んで活けた生け花、ゆかた姿での盆立て点前、静謐を醸す茶の香り、雅な「越天楽」の調べ、初めて筆で自分の名前を墨書したときの来訪者たちの歓声、メールのアドレス交換に忙しい現代っ子の姿など、など……会場は賑やかな話し声に包まれていた。

また、ケインズ・カレッジのセンター(Centre for English and World Languages)側からも、茶の湯の備品の準備費用として百ポンドが提供され、専属スタッフからもたいへん好意的な評価を得ることができた。また同時期滞在中の神戸女子大学の短期留学生たちからも元気のよい「ヨサコイ・ソーラン」が出し物として披露された。

今年の英国留学は、ロンドンオリンピック開催という記念すべき年にあたり、ケント滞在中の八月十二日にはロンドン中心部のテムズ川沿いの沿道で日の丸の小旗をふって男子マラソンを応援した。帰国前のロンドン滞在中にはパラリンピック開幕直前のロンドンの華やぎを体験した。二つのオリンピックに挟まれていたため、私たちが毎日食事をしたケント大学ラザフォード・カレッジのダイニングホールは、色色な国のチームの選手たちで賑わった。キャンパスで出会った南アフリカの女子チームのヘルメットに刻まれた言葉「ゴールは〈輝くこと〉!」は、私たちのこの海外研修への大切なメッセージでもあった。未知の国や人々との出会い、英語を通して世界と繋がる真の国際交流の喜びとゴールは、まさに、この〈輝くこと〉を一人ひとりの学生が学びとることではないだろうか。

茶道で伝えた日本のこころ

コミュニケーション学科二年　松田美咲

私は少しでも英語が上達すればと思って、この留学に参加しました。日本での事前研修の際に、池田先生から「ケント大学で日本の文化を紹介したいので、お茶会をやってみないか」と誘われ、何度も入念にリハーサルを行いました。

八月十五日、「ジャパニーズ・カルチャー・イブニング」と題し、私たちは茶道、切り絵等のパフォーマンスを、共に学んだ神戸女子大学の学生団はよさこいソーランを演舞しました。当日は、百名近い来場者が押し寄せ、会場は熱気に包まれました。その雰囲気に圧倒され、「果たしてうまくできるだろうか」と不安になりましたが、仲間や先生方のサポートもあり、楽しくお茶を点てることができました。茶道具や抹茶の点て方を英語で説明するのは大変難解でしたが、少しでも伝統的な日本の文化を伝えられたことに日本人としての誇りを感じることができました。また、「エクセレント!」の言葉に自らの茶道に対する自信を深めることもできました。繊細な日本文化、例えば今回の茶道の手ぎわは、伝統を尊び、歴史と気品を重んじる英国人に受け入れられたのだと思います。

英国で学んだ本場の英語や外国人とのコミュニケーション方法などは社会に出ていく上で重要なことだと思います。これからの学生生活に、また日々の生活に今回の経験を活かしていくつもりです。

社会福祉学部 卒業生へお知らせ

来る二月十六日(土)に、社会福祉学部最後の入学生が卒業する記念に、社会福祉学部交流会「フク福フェスタ」を開催します。ぜひお越しください。

社会福祉学部

伊勢から広がれ! まちづくりの和輪

「何事もやるか、やらないか。まずは行動することで多くのことを学んでほしい」と鈴木知事

第13回 全国まちづくりカレッジ2012 in 伊勢

十一月十七日、十八日の二日間にわたり、第十三回全国まちづくりカレッジが開催された。全国まちづくりカレッジ(通称まちカレ)とは、地域と協働でまちづくりに携わる全国の大学生が交流を深めようと始まったもの。十三回目を迎える今年はホストとして本学が立候補し、この度の開催にこぎつけた。

十七日は外宮を中心としたフィールドワーク、十八日は伊勢市観光文化会館を会場に各大学が取り組むまちづくりの事例発表と鈴木英敬三重県知事を交えたフォーラムが行われた。県知事が同大会に参加するのは初めてのこと。鈴木知事は「開催を実現した皇學館の学生さんの実行力に感銘を受けた」と話し、「三重は学生がまちづくりに関われる環境整備が遅れている」と反省しながらも、「組織づくりの大切さを痛感した。まちづくりについても地域産品をメニューに取り入れたカフェなど、他大学の実践例が参考になった」と実り多き大会を振り返った。

北海道から沖縄まで、本学を含め14校が参加した

本大会の実行委員長を務めた現代日本社会学科三年の牧田拓也君は「運営の仕方など、わからないことだらけで迷惑をかけた」と反省しながらも、「組織づくりの大切さを痛感すると思う。この大会が起爆剤となれば」と活動のさらなる活発化に期待をのぞかせた。

神都ライオンズクラブより 寄付金贈呈

中川会長(左)より寄付金を贈呈される清水学長

十一月十三日、本学の国際交流推進のため、神都ライオンズクラブより結成三十周年を記念し、「青年海外研修支援金」として、金百万円の寄付金が贈呈された。贈呈式で、中川健(たけし)同クラブ会長は、「クラブでは、地域への留学生受入に関する支援を行ってきたが、今後は派遣の方にも力を注ぎたい。まずはその実績のある皇學館大学を支援したい」と述べられた。それに対し、清水潔学長は、「学生の海外派遣のために有効に活用を図っていきたい」と答え、本学からクラブに対し、感謝状が贈られた。